

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490800295		
法人名	株式会社 みえ親孝行		
事業所名	グループホーム伊勢かわさき		
所在地	三重県伊勢市河崎3丁目9番14号		
自己評価作成日	令和4年12月28日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JizyosvoCd=2490800295-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JizyosvoCd=2490800295-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和5年1月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>週に2～3回の入浴で、炭酸泉の檜風呂を利用して頂いている。</li> <li>見た目もよく、栄養のバランスの取れた食事の提供を行っている。</li> </ul>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>第8派コロナ禍でR5年1月13日、県内に「医療ひっ迫防止アラート」が発出され調査員2人も感染予防対策を充分に取り調査に望んだ。観光地である伊勢市の住宅地の中に立地している開設4年目の事業所である。職員は一人ひとりに関わる支援をする事、我が家と同じように利用者と一緒に過ごせる時間や気持ちを大切に、最後の住まいとして「良かった」と思って貰え、日常生活を楽しく過ごせるように支援している。また職員は利用者一人ひとりの立場と人格を尊重して、常に利用者の立ち場に立ち行動し、「心」と「想い」を一つにしたケアを目指して日々取り組んでいる。さらに事業所自慢の炭酸泉の檜風呂や、一汁三菜の料理は、利用者の楽しみであり、心豊かで安心して生活出来ている事が伺える。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の全職員への共有は出来ていないが、いつでも見れる場所に理念を掲示し、施設の理念を基にケアの実践に努めている。	「心」と「想い」を一つにしたチームケアを目指して、職員・利用者・家族を「一つの家族」と位置付けて、利用者の思いを常に大切に寄り添った支援をしている。また利用者個々の人格を尊重し、役割を持つように支援をすることで、利用者は安心して生活出来ている。	理念である「心と想い」を要とし、職員の多様性を特徴としながら、利用者・家族や職員を含む全員の想いに寄り添い、笑顔の絶えない環境造りをされ、更なる事業所のレベルアップに期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、来客はなく、又地域のイベント行事もなく過ごしているが、時々近所の方が、自宅で栽培している物等を持って来てくれる。	地域ケア会議や集会で行事やイベントについて話し合っていたが、コロナ禍で箕臼になっている。コロナ禍ではあるが、町内会との連携はあり、環境に恵まれて近隣への散歩に出かければ気軽に挨拶が交わされ、野菜の差し入れがあり日常的に交流は出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様の不安に思う事や、対応方法等、相談があれば対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在中止しているが、ご家族様には現在の入居者様の現状報告も兼ねて、不定期で新聞を発行している。	事業所の課題を取り上げ活発な意見が出され有意義な会議となっていたが、コロナ禍で開催できていない。事業所の現状については、「のんびり新聞のちょこっと日常風景」で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町への提出書類等は極力本庁へ出向き、疑問や質問を行っている。	行政とは、情報交換や生活保護利用者の受け入れ等で協力体制はある。管理者は疑問等があると相談に出かけ、現場の状況を伝える機会を作っている。コロナ禍で市の研修会はズームで参加している。最近には、物価高騰金についての質問や相談をし密に連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を行うことで拘束にならないケアの実施、月1回の委員会で話し合いを行っている。	事業所の身体拘束マニュアルや市の資料で職員研修を重ねて身体拘束防止に努めている。支援中に職員同士で声を掛け合って身体拘束をしない支援に取り組んでいる。最近ではスピーチロックやドラッグロックについて常に話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、虐待を防止し、職員同士がいつでも話し合える場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンス研修の実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明を心掛け、理解して頂いているかの確認を行っている。また、いつでも質問等があった場合、問い合わせに対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の会議を行い、話し合う場を設けている。	コロナ禍で面会制限をせざるを得ない時期もあり直接意見を聞く機会は少ないが、電話やリモートで家族から提案、希望を聞くように努めている。「面会はいつになったら出来ますか？」の質問には、コロナウイルス感染拡大時ではあったが、完全予約制のオンライン面会に対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の委員会を行い、話し合う場を設けている。	管理者は、働きやすい環境を作るために職員の意見をよく聞き、職場に反映できるように努めている。ユニット会議時やラインを活用して提案を聞くようにしている。月1回の動画発信や事業所内研修実施、外部研修にもズームで参加し職員希望のレベルアップにもなった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段から職員との交流を持ち、意見を聞き、出来るだけ職員が働きやすい環境作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、動画配信や資料を使用し、研修を実施している。又、現場で職員のケアの指導をして、レベルアップを心掛けている。外部研修にも積極的に参加するように声掛けしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や会議等もオンライン化し、交流がない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設での生活に慣れるまでは職員が手厚い介護を行い、他の方との橋渡しや、生活に不便がない様に介助する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの内容等を説明し、理解して頂き、家族様の意向も取り入れたプランの作成を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の現状を把握し、家族様の気持ち等を含め、個々に合ったサービスの提供を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とは、喜怒哀楽を共にし、メリハリのある生活が送れるように生活の場を提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会は全面中止になっているが、入居者様と家族様の絆を大切に頂く為に、訪問があった時にはお互いが顔を合わせられる様に対応している。また、電話等は取り次ぎ、絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の大切にしてきた関係等が途切れない様に手紙や電話での対応を行っている。	コロナ禍で馴染みの関係継続が難しいが、宮川の桜等馴染みの行事の話が話題にして昔を思い出したり、「雪について思い出ある？」と問いかけると昔の雪降りを思い出して話が盛り上がるようにし、利用者が孤立せずに楽しめるように支援している。その時には、利用者同士が良い関係を築いて事業所内で馴染みの関係が育まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がなじみの人になれる様に、職員が仲介したり、声掛けを行い良い関係になるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された方でも、次の施設の職員等から相談や連絡があった場合には、当施設で行っていたケア方法等を教えたり支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者がやりたい事を把握し、出来る限り希望に沿った生活が続けられる様に支援している。	利用者はどうなのか？を職員は常に考えながら理解するように努めている。日々の支援の中で個々が発する言葉を情報としてケア記録に記載し、できる限り希望に沿った生活が出来るように努めている。また「何が食べたい？」と希望を聞き取り食事に取り入れた事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前までの生活を基本に介助や支援又は声掛けを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来なくなる事が増える中で、生活のリズムが崩れない様、継続した生活が出来る様に介助、支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や訪問時等に家族様からの意向や思いを聞き、取り入れた計画を作成している。	職員が日々記入した支援経過記録やケア記録を参考に、介護支援専門員を交えて毎月モニタリングをしている。家族等参加のカンファレンスは3カ月毎(コロナ禍では電話確認)とし、基本短期目標3カ月、長期目標6カ月毎に見直し、介護支援専門員が介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入を行ったり、職員同士で話し合える場を設け。共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	枠にとらわれず、日々新しい発想等を取り入れ、個々の状態に合わせた支援や介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の出来る事を把握し、安全で安心な暮らしが出来る様支援し、最大限に力を活かせるように心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診の実施を行うと共に、急変時等は往診医へのオンコールや往診の対応を行っている。	内科医(協力医)による月1回の訪問診療は、利用者全員が受けている。また緊急時、時間外でもオンコール対応が可能で、利用者・家族の安心となっている。また、月1~2回の看護師によるバイタルチェックや、医療面での相談を提供し緊急時の安心に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護、看護間での申し送りや報告を行い、適切な受診や処置が受けられるように支援している。又、同事業所の訪問看護師と24時間連絡が取れ、医療面等での相談や指示を受けることが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリー等を渡し、適切な対応が出来る様に支援している。また、退院時には病院の担当者と情報の交換を行う様になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの研修を行い、実際に看取りを行い課題等がある。重度化した場合の対応は全職員に周知出来ていない。	入居時に「重度化した場合における対応に関わる指針」を利用者・家族に説明している。職員研修も行い、看取りの時期になればチームでの体制作りも出来ており、前向きに取り組んでいる。最近病院から入居になった利用者を看取った。AED研修未受講者に研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置があるが、一部職員の研修がまだ終わっていない。緊急時の対応は全職員が周知出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の委員会での話し合いを行っているが、コロナ禍で避難訓練の実施を行っていない。	職員は毎月の災害対策委員会で、避難場所・対応策等を話し合い、「可動式非常用電源装置」「非常時持ち出し用品」「備蓄」もある。「グループホーム伊勢かわさき非常災害対策計画」に則り対応を行うと決めており、河崎町町内会とも連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を実施し、プライバシーについての話し合いを行った。	利用者が、居室に居たいと訴えた時には過ごしたいようにしてもらっている。職員は個人情報・プライバシー保護の研修を受けて利用者本位の支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや主張がある際、話を聞き対応している。自己決定が出来る様に職員本位の介助にならない様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人のペースで過ぎて頂いている。声掛けや支援は個人のリズムに合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々それぞれに思いがあり、身だしなみやおしゃれに気を使う方には特に配慮し、介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後の机拭き等は手伝って頂いている。食事の準備や配膳は職員が行うが、下膳等はお手伝いして頂いている。献立表を掲示し、いつでも見れるようにしてある。	食べる楽しさを再認識できる一汁三菜を基本にした献立で、ソフト食やムース食にも対応している。食事後のテーブル拭き・下膳に参加できる利用者は、個々の生きがいになってる。自分で飾るホットケーキやたい焼きパーティーにも笑顔で参加できた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量等は個々に合わせ提供している。又、水分については職員が勧めたり、嗜好品を提供することで摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と食事後に口腔ケアを行っている。個々の能力に合わせて支援や介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの声掛け、介助は個々の能力に応じて支援している。介助の必要でない方も見守りや声掛けの支援を行っている。	利用者の個人ケア記録の時間表を参考に、職員は排泄パターンを把握しており、トイレ誘導・声掛け・見守りをすることで、トイレでの排泄が習慣になった利用者や汚染が少なくなった利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつにバナナ等を提供したり、適度な運動を行う為に、廊下を歩くように声掛けしたり、体操をしたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の好みに合わせて入浴介助を行い、入浴が楽しみになるように心掛けている。入浴の曜日は決まっているが、拒否等があった場合には臨機応変に対応している。	基本週2回の入浴で、人工的に沸かす炭酸泉と檜造りの湯船は事業所の自慢で、入浴時の利用者の嬉しそうな笑顔もひと際輝き、リラックス・血液促進効果があり健康の秘訣になっている。体調によりリフト浴の利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の意思を尊重し状況に応じて居室で休息して頂いている。又、夜間は安眠出来る様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の能力に合わせ服薬介助を行っている。全職員が同じ介助が出来る様に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員ではないが、趣味や楽しみがある方には個々で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には数人ずつで散歩を行うが、コロナ禍で、買い物や外泊等を行っていない。	コロナ禍で外出自粛がある中、環境に恵まれ、中庭で花を育てたり、暖かい日には洗濯物を干しに中庭に出たりと外気浴を楽しんでいる。好天の日には、感染予防対策を充分に取り、施設周辺を散歩に出かけることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内への金銭の持ち込みはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があった時や手紙が届いた時は取次を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナの感染予防の為に常に換気を行っている為、フロア内の室温は低くなっている。夏になると、中庭で向日葵や朝顔を育てており、水やりや草抜きをして、季節を感じて頂いている。	共用空間は窓も大きく採光もほどよく明るい。コロナウイルス感染予防対策として、次亜塩素酸脱臭機・加湿器・空気清浄機も使われて清潔な空間であり、テレビを見たりお話をしたりと思い思いに過ごされている。また建物の中心には各ユニットから眺められる中庭があり、草花が視野に入る事で季節を感じる事が出来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは皆さんが集える場所を提供している。フロアの死角にソファーが置いてあり、一人になりたい時に落ち着ける場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々のなじみの深い物、使い慣れた物等を持って来て頂いており、居心地の良い空間で生活して頂いている。	入居時に利用者と家族で自宅で使い慣れた調度品を個人の好みに設置している。自宅の延長として安心して生活できるように工夫している。日本人形を飾られている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に考えながらも、個々の残存能力を活かし、出来る事は見守りや声掛けで行っていただいている。		